

佐屋高校図書室へようこそ(^^)!



図書室をご紹介します!

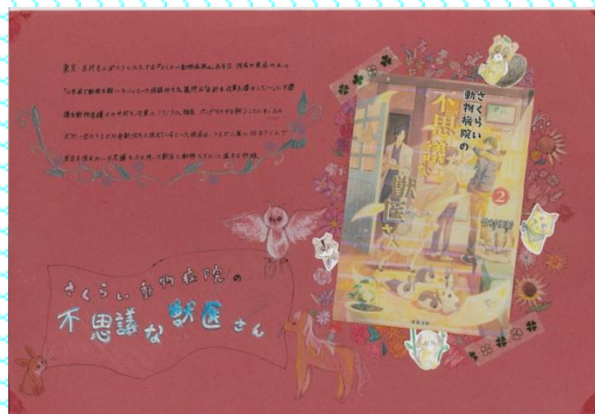
本校の図書室は、本館棟3階の東端にあります。空気の澄んだ晴れた日に、西から伊吹山、白山、乗鞍、御嶽、中央アルプス、恵那山を一望することが出来る見晴らしの良い明るく広い図書室です。

生徒は、学科の調べ学習や好きな読書を楽しむために活用しています。また、ちょっと疲れた心身をリセットする場所としても利用しています。蔵書数は、約16,000冊。農業や家庭科に関する専門的な本が多くあります。

* 読書月間 *

図書委員が本の案内ポスターを作成して校内に掲示します

- 『今さら聞けない 肥料の話 きほんのき』
農文協編(農山漁村文化協会)
- 『さくらい動物病院の不思議な獣医』
竹村優希(双葉社)
- 『OVERLORD』
丸山くがね(KADOKAWA)



* ビブリアバトル愛知県大会 *

ビブリアバトル愛知県大会 第3位

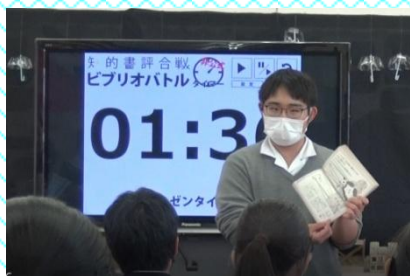
令和2年度 園芸科学科3年 桑村海吏



令和2年10月25日と11月1日、愛知県立図書館にて行われた「ビブリアバトル愛知県大会」に参加しました。紹介した本は、住野よる著『よるのばけもの』(双葉社)です。夜になると“ばけもの”の姿になってしまう主人公の少年が、忍び込んだ夜の教室でクラスメイトのいじめにあってる少女と鉢合わせてしまいます。それから夜の学校での交流が始まります。僕は、主人公が考える“ばけものとは何か”に焦点をおきこの作品を読みました。しかし、この物語には読者のとらえ方により作品の印象が変わってしまう面白さがあるのでぜひ読んでみてほしいという紹介をしました。

* 校内ビブリアバトルチャンプ本大会 *

令和2年11月16日 図書室にて公式ルールに則り開催しました。発表者5名 投票者31名。発表者は、9月～10月 グループごとに予選を開催し発表者を選出しました。



☆グランプリ 令和2年度 1年図書委員

『おもしろい！進化のふしぎ
ざんねないきもの事典』
今泉忠明(高橋書店)



やさしい語り口調で、この本に登場する動物の中から7種類を紹介。ダチョウの脳は目玉よりも小さい。「そんなんで大いじょうぶなのか!!」さるのおしりは赤ければ赤いほどもてる。「さるのお尻は人間の顔とおなじなのか!!」など楽しく内容を語ってくれました。会場を彼のトークに引き込み、みごとグランプリとなりました。

【チャンプ本大会で紹介された本】

令和2年度 3年図書委員

『君の臍臓をたべたい』
住野よる(双葉社)



冒頭、葬式の場面から始まるこの物語。主人公がなぜ“君”の葬式に行かなかったのか?という点に注目してこの本を語りました。

令和2年度 3年図書委員

『君『浜村渚の計算ノート』
青柳碧人(講談社)



数学好きの発表者が、物語の中で展開される“数学”特に“0(ゼロ)の概念”について語りました。

令和2年度 3年図書委員

『ポケネコにゃんころりん』
山本悦子(童心社)



小学生から何度も読み返している愛読書。不思議なペットショップで出会った猫“にゃんころりん”と主人公の物語を好きなイラストを紹介しながら語りました。

令和2年度 2年図書委員

『Bloodborne
Official Artworks』
電撃攻略本編集部(KADOKAWA)



この本は、ブラッドボーンというゲームの世界観が詰まった画集。旅行のガイドブックを見るようにこの本でゲームの世界を旅してみたいと面白い切り口で語りました。

ブックトークの葉っぱコンクール



毎年、図書課題として1年生全員が「ブックトークの葉っぱ」を制作しています。提出された「葉っぱ」の中から優秀賞として20作品を選び表彰します。ここで紹介している「葉っぱ」は令和2年度の優秀賞の作品の一部です。



へそまがり昔ばなし
著者 ロアルド・ダール
あなたはへそまがった結末を知っているだろうか!?

この本は大変変わったお話だ。一般的に知られている「3びきのクマ」は少女が勝手に家に入、乙、おかゆを食べて、ベッドで寝て、起きたらクマたちがいて、少女が逃げる。これが一般的な「3びきのクマ」ですね。でもね、へそまがり昔ばなしの「3びきのクマ」は、やさしくない終わり方。みんなの知らない終わり方。さあ、少女はどうなると思う? それは自分の目で確かめて!



李陵・山月記

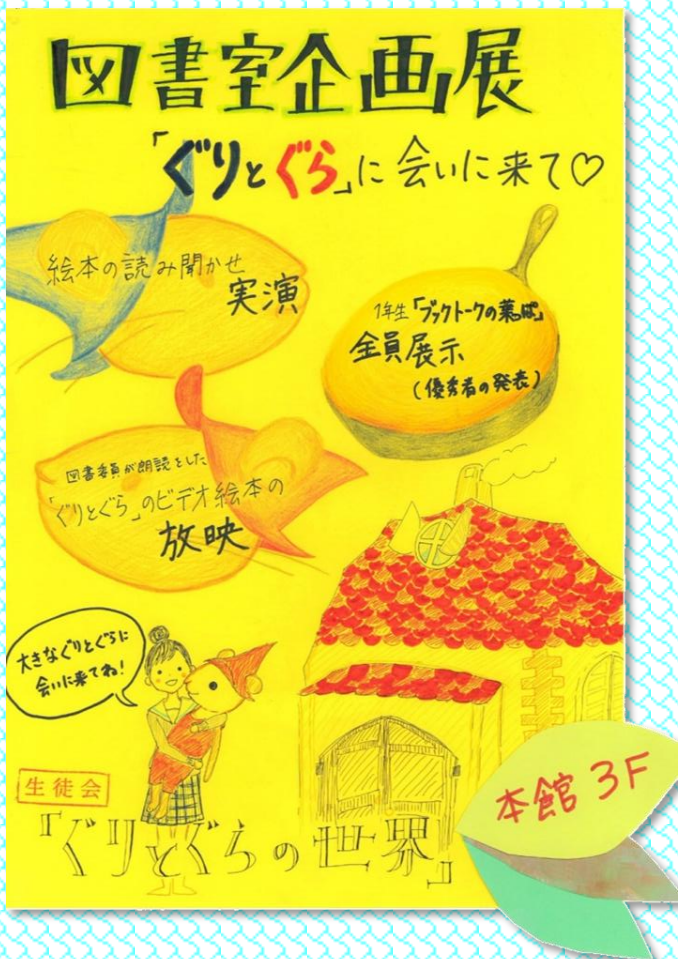
著者:中島敦 <心の物語変わり>
山月記という本をご存じでしょうか。私がこの本を知ったのは2年前のことです。私はこの本の作者をとあるアニメで知りました。山月記という話は李陵という人が虎になる話です。虎になる話などおかしいと思う人もいるかもしれませんが、李陵の人生や心情が細かく書かれていて、とても考えさせられる物語です。この他にも別の物語もあります。文豪の作品は奥が深いのでぜひ読んでみてください。



* 文化発表会図書室展示 11月14日(土) *



テーマ「ぐりとぐらに会いに来て」



令和3年11月14日(土)文化発表会では図書室展示を行いました。

「ぐりとぐらに会いに来て」をテーマに、「ぐりとぐらの家」、大きな絵本、大きなぐりとぐら(ぬいぐるみ)などを展示して図書室に絵本の世界を創りました。

また、1年生課題「ブックトークの葉っぱコンクール」優秀賞の発表と展示も併せて行いました。



さらにビデオ絵本の作成と放映、絵本の読み聞かせ実演などなど、盛りだくさんの内容でした。図書委員ががんばりました!!



* 先生おすすめの一冊 *

「おすすめの一冊」 国語科 Y

『図書館戦争』 有川浩(KADOKAWA)



もしも、本を読む自由を奪われたら？もしも、自分の思いを表現する自由を奪われたら？有川浩氏の『図書館戦争』は、そんな「もしも」が起きてしまった日本が舞台となっています。数年前に映画化されたので、ご存じの人も多いかもしれませんね。公序良俗を乱す表現を取り締まる法律により表現の自由が制限されるなか、厳しい取り締まりから本を守るために「図書館隊」に入隊した女の子が、仕事に恋に奔走するお話です。

高校生の皆さんにおすすめの本を紹介する機会をいただき、どんな本を紹介しようかとあれこれ考えましたが、せっかくなら自分が高校生の時に好きだったものにしようと思ひましてこの本に決めました。

この作品の魅力は、なんといっても生き生きとした登場人物にあります。単純で体力自慢の主人公や、頭脳明晰な友人たちに、頼もしい教官たち。敵対勢力との激しい抗争の場面がありながらも、すらすらと読み進められるのは彼らの日常があざやかに描かれているからだと思います。「自由とは？」「権利とは？」「正義とは？」という難しいテーマを取り扱ってはいますが、難しい部分はさっと読み飛ばしても大丈夫。一人の女の子の恋愛模様を追うというのもこの作品の楽しみ方のひとつです。というのも、筆者の有川浩氏は「月9みたいな小説」を目指したそうですから。

とはいえ、筆者が伝えなかった「表現の自由」とその規制について何も語らないというのも本筋ではないでしょう。考えてみてください。「表現の自由があるから」といって何を言っても許されるのでしょうか。一方で「自分にとって不愉快だから」という理由でほかの人の行動を制限してもよいのでしょうか。ツイッターやインスタグラム、ユーチューブなどの登場により、私たちは簡単に「表現者」になれるようになりました。そんな私たちですが、「自由」や「権利」についてじっくりと考える時間を作ることは意外と難しいことです。この作品を読むことによって、考えるきっかけになればと思います。

図書館にもありますので、ぜひ読んでみてください。

* 図書委員おすすめの一冊 *

「おすすめの一冊」 令和2年度3年図書委員

『キノの旅 the Beautiful World I～XXIII』
時雨沢 恵一 (KADOKAWA)



主人公のキノが相棒のエルメスという言葉を話す二輪車とともにいろいろな国に旅をして3日間だけ滞在する物語です。この物語は短編連作となっていて朝読におすすめです。

私のお気に入りの物語は『主食の国』です。この国は、豚肉のチョコレート煮・蓮根のチョコレート詰め・チョコレートサラダなどチョコレートが使われた変わった料理ばかり。「胸焼けするほどチョコレートが食べられる!!」楽しい?嬉しい?いやいや住みついたら「必死で歯磨きしないとすぐ虫歯になる!!」。色々自分で“ツッコミ”ながら楽しく読みました。

コロナ渦で旅行もままならない今、読書でファンタジーの国を旅してみるのはいかがでしょうか。